



Aちゃんも参加した、遙学園高校生プロジェクトが、石川県珠洲市にボランティアへ行った様子

感謝

水上の友

発行 社会福祉法人
大阪水上隣保館
〒618-0001
大阪府三島郡島本町
山崎5丁目3-18
発行人 水 本 行 彦
編集 広報委員会
法人事務局 075-961-0711
FAX 075-961-1144
<http://www.osakasujorinpokan.com/>
印刷所 (有) 木村桂文社

自立に向けた、

ひとり暮らし体験中

私は現在大学生で、看護師取得を目指しています。

五歳の時に、遙学園にきました。集団生活がいやで、先生たちにも反抗していた時期が長くありました

高校へは、家から進学することで話が進んでいましたが、最終的には叶いませんでした。結局遙学園から高校に通うことになりましたが、集団での生活や、職員との関係性など、しんどい状況に変わりはなかったため、そのしんどさを先生たちに何度も訴える中で「食事なども含めて、何もかも一人でやってみるか」と園長に言われました。私はその話に飛びつき、敷地内の職員宿舎で自立訓練として一人での生活を始めました。

食費をもらい、スマホを見ながら色々な料理を失敗しながらも作るようになります。学校のお弁当も作りました。疲れた時に自炊するしんどさもありましたが、よい経験になりました。

二〇二五年標語

平和を実現する人々は、幸いである

―マタイによる福音書五章九節―

担当の先生はいますが、先生はホームに入っているの、幼児さんの対応が終わってから私のところに来てくれました。

進路は、何か資格を取ろうと思い、看護の大学を選びました。医療系はお金がかかるので、進学後アルバイトをしつつ、国家試験の勉強もしなければいけないので、短時間で収入を得るために、夜間帯のアルバイトを選び、帰るのが深夜になることもありました。

園長は遅くなるとうるさいし（心配してくれているし）、電車の時間も気になるので、職員寮を出て、本当の一人暮らしをすることに決めました。アパートを借りるため、不動産屋にも自分で行き、候補の物件を見つけてきました。「引っ越しする」と園長に言う「生活費のことで困るやろ」、「具体的なイメージができてくるのか」など、たくさん聞かれ、たくさん話をしました。

私の本気が伝わったのか、園長がひとり暮らしを応援する制度があることを説明してくれました。一人でやっていくと覚悟をしていたつもりでしたが、不安もあったので、その話を聞いたあと、本当はすごく安心しました。

職員寮でのひとり暮らし体験の成果も感じながら、大学も無事に進級しています。これからは国家試験に向けて

頑張ります。

（大学生A）

※児童養護施設の入所期間が、最長で満二十歳だったのが、児童福祉法の改正により、最長年齢が撤廃されました。Aちゃんは、児童自立生活援助事業を利用し、ひとり暮らしをしながら大学に通っています。

また、法人の水青会奨学金も受けているため、アルバイトもしていますが、学業も含めた充実したスクールライフを送っています。

暑中お見舞い

申し上げます

ところで、今はあなたがたも、悲しんでいる。しかし、わたしは再びあなたがたと会い、あなたがたは心から喜ぶことになる。その喜びをあなたがたから奪い去るものはいない。

―ヨハネによる福音書 一六章二三節―

豊中市域に乳児院の「はばたき」を開設いたしました。

これからも、創設者中村遙・八重子の思い、志を大切に運営してまいりたいと考えています。どうぞ今後とも見守りとご支援、御加持の程よろしくお願いいたします。

二〇二五年 盛夏

社会福祉法人 大阪水上隣保館

はばたき開設 ―大阪水上隣保館への仲間入り―

はばたきは、令和七年四月一日に、豊中市が管轄する最初の乳児院として、十人の定員で開設されました。同市が児童相談所を開設するに伴い、乳幼児の様々な課題にも手厚く応えられる受け皿として、乳児院の設置が要請されたことによるものです。平成三十年より開設している同法人の児童養護施設翼とは、車で十分ほどの距離です。

乳児院開設に向けては、準備の中でも、とくに人材確保の面で苦労もありましたが、結果的に、しっかりと整えることができました。

採用した職員たちは、新卒だけでなく、保育園や障がい児施設で、保育や養育に携わっていた保育士。長年助産師として多くの母子の出産に立ち合ってきた人など経験豊富なベテランもみんな、児童福祉施設で働きたいという強い思いを持って、はばたきに集まりました。

四月一日には、施設の近くにある万博記念公園にお弁当を持って、お花見に行きました。実は、職員全員が顔を合わせるの、この日が初めてでした。「はじめまして」などのあいさつを交わしながら、次第に「お弁当の具材は？」「どこに買いに行こうか？」などお花見の準備をはじめ、力を合わせて完成したキャラクターのお弁当を、



子どもたちもよろこんで食べてくれました。

新しい施設なので、実際の業務が始まると「もっとこうしたい!」「こんなことはできないか?」と課題もたくさん出てきます。そこで、職員を『フィールドワークチーム』と『環境整備チーム』に分けて、意見を申し合っていました。

『フィールドワークチーム』は、地域のどの病院がいいのか、公園にはどの道を使って行くのが安全かなどを、実際に歩いてみながら地図を作っています。

『環境整備チーム』は、部屋の収納の課題や、子どもたちが安全に安心して楽しく暮らせるには、どのような環

境がいいのかを考えています。今は、ホールに広い空間があるため、子どもたちが集えるように、砂場や芝生の設置ができないか?大きな木のオブジェなど置けないか?など、夢を膨らませながら検討をしています。

なお、施設の役割は一時保護や入所児童及び、その家族への支援だけではなく、近隣の市町村と子育て短期支援事業の契約をし、保護者のレスパイトや一時的に養育が困難になった場合にお子さんを短期間お預かりすることもしています。ご利用される方も多く、毎日新しいお子さんとの出会いがあります。

地域の親子が、安心して利用できる場所になり、子育てで孤立や不安を抱える保護者が少しでも減るように、乳幼児の様々な課題に手厚く応えられる受け皿として、がんばっていきます。

(保育士 坂下美穂)



社会福祉法人 大阪水上隣保館

| | | |
|------|-----------------------------|-------|
| 理事長 | 元大阪府契約局長 (学)山崎学園理事長 | 水本彦 |
| 常務理事 | 児童養護施設達学園 施設長 | 村井徹 |
| 理事 | 元大阪府教育長 | 黒川芳朝 |
| 同 | 衣目公認会計士事務所会長 | 目修三 |
| 同 | 元島本町民生部長 | 岩村一教 |
| 同 | 元島本町主任児童委員 | 川淵敬子 |
| 同 | 元別府市小・中学校校長 チヤブレン | 杉本美由紀 |
| 監事 | 元大阪和銀行現職りそ な銀行事務部長代理 | 村田和彦 |
| 同 | 元山崎幼稚園長 | 吉田美代子 |
| 評議員 | 福祉哲学研究所所長 | 秋山智久 |
| 同 | サントリ・リッツ(株) 山崎蒸溜所工場長 | 有田哲也 |
| 同 | 同志社大学名誉教授 | 山田裕子 |
| 同 | 天津福音教会牧師 | 上田恵美子 |
| 同 | 洋画家 | 加田哲二 |
| 同 | 臨床心理士 | 濱口美雪 |
| 同 | 元島本キリスト教会牧師 前島本町教育センター所長 | 掘田啓文 |
| 同 | (社)福武田塾理事長 | 山幸雄 |

| | | |
|------------------|-------------------|-------|
| 事務局長 | 児童養護施設達学園施設長 | 山村井深 |
| 逡学園副施設長 | 児童養護施設翼施設長 | 濱口京子 |
| 児童心理治療施設ひびき施設長 | 大阪水上隣保館乳児院施設長 | 幸嶋成幸 |
| 乳児院はばたき施設長 | 里親支援センターおひさまセンター長 | 高池弘美 |
| 特別養護老人ホーム弥栄の郷施設長 | 山崎保育園長 | 石井優一 |
| 認定こども園藤の里保育園長 | 障害自立支援拠点レモンテラス施設長 | 赤木悦子 |
| 大阪保育福祉専門学校校長 | 附属診療所さくらクリニック院長 | 遠藤弘美 |
| さくら館長 | 学校法人山崎学園 | 久野弘之 |
| 山崎幼稚園長 | 大森弘子 | 安原千香子 |
| | | 飯田享子 |
| | | 藤輝子 |

みんなの広場



カット絵・光ホームの女子たち

遙学園の卒園卒業を祝う会より 卒園生の答辞

私は、乳児院から入り、二歳で遙学園にきました。小さな頃からミルクがなくなれば泣き、抱っこから降ろされたら泣き、ゆらゆらベッドの揺れが止まると泣き、泣き虫でわがままでした。三歳のころは、ベッドからベッドに飛び移るなどして遊んでいたときに、大げがをしてしまい、本当にたくさんさんの職員さんに心配をかけました。その年の誕生日は病院で迎えました。病院にまでお祝いに来てくれた先生、本当にありがとうございました。

小学生のころも、高学年になるとやんちゃばかりし、小学校を休んだり、施設を飛び出したり、大変なことばかりして叱られていました。そんなときも、話を聞いて、本気で叱ってくれた担当の先生、本当にありがとうございました。

思春期で大変だった頃の私を担当してくれた先生は、お菓子をたくさん準備して、楽しい時間を過ごすようにしてくれました。謝るのが苦手な私に、謝るきっかけを何度もくれて、本当にありがとうございました。

最後に、高校生になり、施設で生活することへの不満が溢れて、飛び出したり、学校がしんどくて休みがちになったときに、根気強く話を聞いてくれた担当の先生、本当にありがとうございました。遙には、たくさんさんの思い出があります。遙学園でよかった。
(高三 女子)

僕は、平成二十一年の三月に遙学園にきました。小学生の頃は本当によく叱られていました。それも良い思い出です。中学生になり、少しは落ち着いて学校も休まず、サッカー部にも入り、本当によくがんばりました。高校生でも、サッカーを続け、真面目にがんばりました。

遙学園での生活では、高校生になり、始めたギターにすっかりハマり良い趣味ができました。施設の行事で発表をし、高校三年生の最後の年には、自分たちで企画した『ミュージックフェスティバル』でも演奏をしました。一緒にバンドをした職員さんは、休みを使っでまでスタジオを借りての練習に付き合ってくれ、本当に良い思い出です。大学でも、サッカーやギターを続けたいです。約十八年間ありがとうございました。
(高三 男子)



私はひびきで在職中、百合さん(水上の友の前号一面に掲載)を担当させてもらっていました。当時の私はただ日々を過ごしながら、彼女が自分と向き合い、悩み、受け入れていく姿を傍で見守ってきました。百合さんを含め、ひびきの子どもたちから、環境を整えながら子ども自身の育ちを待つことの大切さを教えられ、成長していく過程を間近で感じられる、職員としての喜びをたくさんもらいました。

子どもたちが卒園しても、職員が隣保館を去っても、私たちはいつまでも人生の応援団員です。いつでも頼ってくださいね。

(大阪府高槻市 金井香苗)

いつも、水上の友をありがとうございました。百合さんの「今の自分に負けない」という気持ちが痛いほど伝わってきました。大きな無理は心を病むこともあるので、人間にはホッと一息休むことも必要で、でも小さな無理(努力)は、その人を一回りも二回りも大きく成長させる。そういうことを百合さんは学ばれたのですね。周りに支えてくださる方はいらっしゃいます。本当に大事なことです。

(大阪府三島郡 齋藤悦子)

水上の友をいつもありがとうございます。子どもたちにとって、水上隣保館がいつでも帰れる場所として、存在し続けるよう、祈りつづけていきたいです。巣立った行く先々で、温い気持ちに触れられる社会でありますように。
(東京都町田市 川谷恵子)

『伴奏者として』
二〇一二年に少子化と言われる日本で、四万人を超える子どもたちが、児童養護施設で暮らしていることを知りました。

その後、知人の紹介で初めて児童養護施設に見学に行かせていただいたのが、遙学園さんでした。その数年後に、改めてご縁をいただくことができました。

子どもたちはいずれ、社会に旅立ちます。そのときに、上手く旅立てるよう、そしてその後の人生の伴奏者として、寄り添っていきけるご縁を繋げていくことが使命だと思い、関わらせていただいております。

仕事を通じて、人との関わりを通じて成長し、自信ややりがいを感じてもらえるよう、職場体験や就労支援をさせていただいております。

一人でも多くの子どもたちが、自分の可能性を信じ、明日への希望や夢をもって生きていけるために、私たちにできることをやり続けていきたいと思っています。

(メリーミーズ代表 藤原美奈)

児童養護施設

遙 学 園

卒園生からの手紙

水上の友第一二二号の一面で取り上げたともちゃん（旧姓松岡智子）が、久しぶりに顔を出してくれました。その時に手紙を書いてくれていたので、ここでご紹介したいと思います。

『私が遙学園を卒園して、十九年が経ちました。当時十七歳だった私は、あと一年で高校を卒業。進路をどうしようかなと思いつながら、毎日楽しく過ごす高校生でした。しかし、桜が散り始めた頃、家庭の事情で家族と一緒に暮らせなくなりました。』

家庭裁判所の方、児童相談所の方、弁護士の方などたくさんの方に支えられ、遙学園に連れてきてもらったことを今でも覚えています。

当時は、ひびきができる頃で工事が始まることもあり、新規の入所は難しいかもしれないと言われたのですが、遙学園の先生方がとても温かく迎えてくださいました。バタバタ大変な中、一年しか在籍しないような私を、あの時受け入れてもらえたおかげで、高校を転校することもなく、無事島本高校を卒業することができました。

卒園後看護学校に進学し、看護師になり今も続けています。就職した兵庫県で結婚し、結婚式は遙学園であげさ

せてもらいました。その後生まれた子は、先日小学校を卒業しました。

卒園後も色々悩み「もう、どうでもいいや」と思ったことが何度もありました。でも、いつも遙学園で過ごした日々を思い出します。小学生の子たち、中高生の子たち、先生方と過ごしたのは、たった数ヶ月でしたが、今も大切な思い出です。

様々な事情で、家族と暮らせない子どもたちにとって、帰る場所があること、「おかえり」と言ってもらえること、叱ってくれるところ、抱きしめてくれるところはありがたいです。

私のことを知っている先生もすっかりいなくなり、若い先生が増えていくことと思います。きっと大変な思いもされていると思いますが、めげずに頑張ってください。子どもたちは、私のように先生を忘れません。

松岡智子』



児童養護施設

翼（つばさ）

自転車で広がる笑顔と交流

『二十四時間テレビ』から新しい自転車をご贈りいただきました。昨年度から自転車で乗る練習を重ねてきた子どもたちと一緒に、いただいた自転車で乗って、楽しみにしていたサイクリングに出かけました。

今回は「初心者コース」と題し、距離は短めに設定しましたが、風を切って走る爽快感や、交通ルールを守って走りきる達成感を味わいながら、子どもたちは笑顔いっぱい走っていました。

三歳の男の子も職員の自転車の後ろに同乗して参加。少し高い目線から見ると、大はしゃぎしていました。「また行こうね」という声も聞かれ、特別な時間を楽しんでくれたようです。

また、普段はあまり一緒に過ごす機会のない男女の子どもの間にも、自然と会話が生まれました。自転車という共通の楽しみを通じて、「次は俺が前がいい」「私の後ろついてきてや」「寄り道してみない」というやり取りもあり、急遽公園に立ち寄りしました。見たことのない遊具がある初めての公園に、三歳児も一緒になって、巨大迷路に夢中になっていました。子どもた

ちの笑い合う姿が見られ、年齢や性別を超えた交流が生まれる、心あたたまるひとときとなりました。同じゴールに向かってペダルをこぐことで、仲間意識や信頼感も深まったように感じます。

ゴールした後は、「次はもっと長い距離に挑戦したい」と目を輝かせて話す子どもも多く、次の活動への意欲がしっかりと育まれていることが伝わってきました。さらに、「自転車の免許証を作ってみたい」という、なんともかわいらしい提案も飛び出し、レベルに応じたデザインが変わるカードを作ろうと、話はどんどん広がりました。

その後も数日にわたって「免許証はどうする?」と話題が続き、関心の高さがうかがえました。次回は、子どもたちと地図を広げ、一緒にコースや寄り道先を考えるのも楽しそうです。

(主任 古川さおり)



児童心理治療施設

ひびき

“昆虫食”に挑戦

トくんは、昆虫が大好きな小学五年生です。学校に行く途中でも休み時間でも、いつも虫を探しています。将来の夢は、もちろん「昆虫博士」です。

ある日、図書館から『昆虫食』という本を借りてきました。何やら真剣にメモしているので見せてもらうと、そこにはバッタの調理方法が書かれていました。驚いた私は「昆虫好きなのは知っているけど、食べたいって思うの？」と聞くと「食べたい」と即答。あまりにも生き生きと話すため、それならばと、次の個別の時間で『昆虫食』に挑戦することにしました。

しかし、その辺りにいる虫を調理するわけにもいきません。いろいろ調べた結果、初心者でも食べやすそうな、『昆虫ミックス』というものを購入しました。

もちろんトくんにとっても初めての経験です。机にラップを敷き、広げた昆虫の山から、丁寧に種類ごとに分けます。コオロギ、イナゴ、カイコ、ケラ、スーパードーム。興味深げに集まってきた職員たちは、虫の山にまず驚き、虫の形そのままであることにも「うわー」と大騒ぎ。そんな大人たちをよそに、トくんは目を輝かせて昆虫の山

を見つめています。

いざ、実食。気になる感想はというと「カスカスやな」「鯉節のふりかけみたい」「これはエビの味」とのこと。躊躇なく口に入れ、美味しそうに食べています。唯一、一緒に食べる約束をしてくれた施設長も参戦し、味の違いを語り合いながら、どれが一番美味しいか感想を言い合います。トくんの一番は、イナゴだったようです。

昆虫食への関心はますます膨らみ、本が苦手だったトくんが、今ではたくさん本を借りてきては、昆虫のタンパク質の話や「これは煮た方が美味しい」「など教えてくれます。

どんな昆虫でも食べてみたいトくん。タランチュラが一番高価だと聞き「高いなら一番うまいはず」ということで、今回は高級食材のタランチュラに挑戦する予定です。

(ケアワーカー 植村香子)



乳児院

味見がメインのクッキング



あさがおホームのクッキングでオムライスを作りました。順番に泡立て器でぐるぐる混ぜて、真剣にお米を研ぎました。お米が研げてからは調理員さんが来てくれて、本格的にオムライス作りが始まりました。

それと同時にポテトとウィンナーを焼き、子どもたちに渡すと、「もう一個」と何度もおかわりをしました。子どもたちに卵の型抜きをお願いしましたが、味見に夢中でそれどころではありませんでした。オムライスを食べた後もポテトとウィンナーがまだまだ食べたい様子でした。

デザートはフルーチェまで食べたし、ちゃんは座ったまま幸せな眠りにつきました。

(保育士 増田侑香)

はばたき

はじめまして



❤️ はばたきにきたAちゃん。どんなところか不安そうにドキドキしているAちゃんを、受け入れが初めてで、ドキドキしている私が迎えました。ゆっくりと少しずつはばたきでの生活に慣れていく中で、次第に声を発し、食も進み、好きなおもちゃや遊具で楽しそうに遊び、笑顔も見られるようになりました。

(保育士 長辻久容)

❤️ 生後九日の、新生児Bくんがはばたきに来ました。私は前職が助産師だったこともあり、新生児にも個性があることを知っていました。Bくんも例にもれず、よくしゃべり、人の話に耳をすませ、ニヒルな笑顔を見せてくれます。

(助産師 中井かをり)

特別養護老人ホーム
弥栄の郷 (やえのさと)



絆・最高のチーム

私が昨年の十二月に入職した直後の一月に、コロナとインフルエンザのクラスターが発生。約一カ月で終息に向かうことができました。そこでチームワーク、各専門職の必要性、役割の重要性をあらためて感じました。

チームワークは、入居者に質の高いケアを提供するため不可欠です。多職種連携、情報共有、役割分担を徹底することで、入居者の状態変化にも、すぐに対応することができました。

この経験は各専門職にいかされておられ、日頃の何気ない気付きにより、医療へつながることができています。今後施設内での感染リスクを減らせるように、日々連携を大切にしていきます。

(看護師 井上明治)

障害者自立支援拠点
レモンテラス



「レッツ クッキング！」

子どもたちと以前より計画していたホットケーキ作りをしました。まずは材料の買い出しへ。交通ルールやお店のマナーを確認し出発です。

買い物リストを見て「あっちだよ」と小さな声で教え合い、無事に購入できました。その後、グループに分かれて協力しながら作業開始。ホットケーキをひっくり返す瞬間は緊張していたAくん。「せーのー」のかけ声で上手にひっくり返すことができ、ホットー安心の様子でした。

みんなで食べていると「美味しい」「またやりたい」と嬉しい言葉が聞こえてきました。偏食のある子どもも自分で作ったことで、一口食べることができました。

(支援員 藤澤星来)

大阪保育福祉専門学校



HOSENに
留学生がやってきた

今春、HOSENには、ネパールから十六名、ベトナムから一名の留学生が入学しました。日本で子どもや介護に関わる仕事と想っていてくれる彼らに対して、学びはもちろん、生活やアルバイトについても、より良いサポートをしていくことが私たちの役割であると考えています。

そこで初の試みとして、三名の学生を遙学園・ひびきの厨房に協力いただき、アルバイト採用をしてもらうことにしました。

日本人ばかりの中で働くのは初めて。初日は担任も付き添いでしたが、二ヶ月が過ぎ、今ではすっかり馴染んで、子どもたちからも声をかけられるようになりました。

(副校長 植田彌生)

山崎幼稚園



『キッキー』今までありがとう

『キッキー』それは、正門に立つ大きな桐の木の名前です。

キッキーは幼稚園創立以来、五十六年間、四季折々の姿で園児を見守り、寄り添ってくれました。春を過ぎると薄紫色の雅な花を咲かせ、夏には大きな葉っぱで木陰をつくり、秋にはたくさんの果実を落とし、時に、園児には自然の豊かさの学びの師となり、時に、道行く人には目を留ませ疲れを癒してくれる存在でありました。

しかし、老齢に伴う倒木の恐れが出てきたことで、伐採となりました。切り株に接ぎ木した幼木からは、もうすでに若芽や若葉が息吹き始めています。生まれ変わった新生キッキー、これからもよろしくね。

(職員 小嶋孝子)

山崎保育園



発見、発見、大発見！

野原を駆け巡り色々な植物や生き物探しに子どもたちは夢中です。

四歳児のHくんは散策しながら「たんぽぽ発見！」「ミミズ発見！」と嬉しそうに教えてくれました。「Hくん探検隊みたい」と言う「そうやで。探検隊になって宝見つけに行くねん」「宝って？」「恐竜の冠。洞窟の中にあるねん」と想像が広がっていくHくん。周りの子どもたちも何かを見つけると「〇〇発見！」と合言葉になり散策を楽しんでいました。

五月末に行った運動会では「探検」をテーマに踊ったりと、まだまだ子どもたちの遊びは続きそうです。気づきや発見に大人も共感し一緒に楽しみみたいと思います。（保育士 安間京子）

認定こども園
藤の里保育園

保護者と共に

クラス懇談会を行いました。私が担任をする〇歳児クラスでは、ふれあい遊びの紹介、スライドショーを用いてクラスの様子を伝えた後に、離乳食の試食会をしました。栄養士から、味の付け方や離乳食のステップアップをする目安などを話しました。試食をした保護者は、「薄味でも味がついている」と驚かれています。

今回のクラス懇談会は、私にとって初めての経験でした。内容や進行の仕方について担任間で話し合っ準備を進め、当日は緊張しましたが、和やかな雰囲気で見守っていききたいと思います。

（教諭 下村由梨恵）

里親支援センター
おひさま

新たなスタート

平成二十八年に里親支援機関おひさまを立ち上げ、里親制度の普及啓発から登録、委託前後の支援に至るまでの一貫した支援をしてきました。

児童福祉法の改正で令和七年四月より『里親支援機関』から『里親支援センター』に変わり、より手厚く支援できるようにになりました。

法改正後は、里親だけでなく、里親家庭の実子への支援も行えるようになります。実子の心のケア、親との関係を円滑にするサポート、実子と里子の関係を良好にするサポートなどを行っていくことになります。

里親家庭のみなさんを大切に思い、職員一同力を合わせて頑張っています。

（支援員 石阪博子）

ファミリーサポートサブリ村野



連続プログラム

『わくわくたんけん隊』

『わくわくたんけん隊』は幼稚園入園を控えた概ね三歳のお子さんが、保護者と一緒に参加するプログラムです。入園に向けてハサミやのり、絵の具などを使った製作あそびや巧技台を使った運動遊びなど、様々な経験を、小さな『できた』体験を積み重ね、自信につなげることが目的です。

六回連続一緒に過ごすことで、仲間意識が芽生え、徐々に仲間を応援したりする姿が見られるようになります。

発達がゆっくりな子、転入してきた子どもたちの『できた』体験が、保護者にとつての安心と喜びの機会にもなってくれればと思っています。

（広場スタッフ 浜屋奈津子）

社会福祉法人 大阪水上隣保館 [児童福祉 95 年]

大阪保育福祉専門学校

〒618-0001 大阪府三島郡島本町山崎5-3-10 TEL.075-962-1115 FAX.075-962-9001



1 2 専門学校・本館・オリーブ館



3 専門学校・中村記念館



4 児童養護施設 通学園



児童養護施設 翼 (豊中市)



乳児院はばたき (豊中市)



児童心理治療施設 ひびき



9 山崎幼稚園



山崎保育園



つどいの広場 (子育て支援) ばんだのいえ (島本町)



障害者自立支援拠点 レモンテラス (島本町)



さくら館



認定こども園 藤の里保育園 (高槻市)



ファミリーポートたかつき (高槻市)



大阪水上隣保館 乳児院



地域交流センター・ゆりの礼拝堂



特別養護老人ホーム 弥栄の郷



大阪水上隣保館附属診療所 さくらクリニック (島本町)



子ども家庭支援センター・ファミリーポートひらかた (枚方市)



ファミリーポートサブリ村野 (枚方市)



里親支援センターおひさま (枚方市)

豊かな自然環境の中でキリスト教の愛の精神に基づいた人格形成をします

山 崎 幼 稚 園

〒618-0001 大阪府三島郡島本町山崎5-3-1 TEL.075-961-3341 FAX.075-961-7296
ホームページ www.yamazaki-k.ed.jp